

大地の生い立ち・美濃加茂⑧

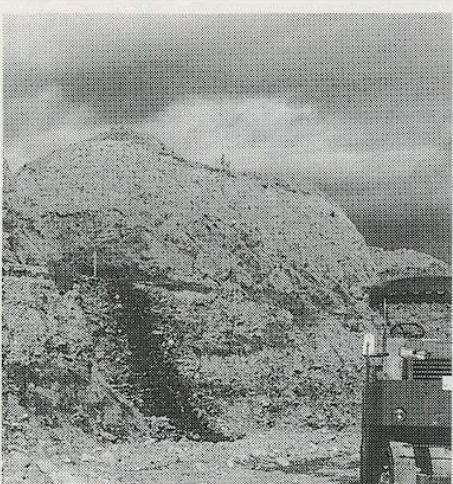
こおんたけかざんでいりゅう

古御嶽火山泥流に

埋まった美濃加茂

中位段丘ができたころの約五万年前のある日、美濃加茂は大規模な火山泥流にみまわれま^{たいせき}した。泥流は堆積した状態で約五^{たいせき}の厚さでした。

加茂野町東端から坂祝町東部にかけて、可児市土田の愛知用水がある高台、下米田町馬串山の北、可児工業高校付近などに、数^{たいせき}以上の厚さの火山性堆積物が火山泥流の証拠として残っています。当時は、これらの地域を結ぶ高さで美濃加茂盆地の広域に堆積しましたが、その後大半が侵食されて、現在は中位段丘の



木曾川泥流(上半分・可児市)



木曾川泥流(藤井1976に加筆)の流下経路

一部にしか残っていません。火山泥流は御嶽山の東麓から木曾川に沿って犬山市までの約百五十^{たいせき}を流れたため、木曾川泥流と読んでいます。時代は、泥流堆積物に取り込まれた樹木を放射性炭素法で年代測定して、約五万年前と測定されました。

(博物館建設委員・鹿野勲次)

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成6年1月分)

○蚊帳 一点

(田口君子さん/本郷町)

市社会教育課博物館建設係(内線362)まで情報をお寄せください。